

## 平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

生徒の主体的な教育活動の実践を通して、次代をリードし地域社会を支える人材を育成し、地域に根ざし、地域とともに歩む学校をつくる。

《育む四つ葉のクローバー（4つのチカラ）》

- (1) 【確かな学力】基本的な学習習慣を身につけ、主体的な学びを通して社会につながる学力を養い、希望の進路を実現する力
- (2) 【コミュニケーション力】豊かな人権感覚を持って違いを豊かさに捉える感性を育み、人とつながり、ともに高めあう仲間をつくる力
- (3) 【課題解決力】「答えのない問い」に真摯に向き合い、思考力・判断力・実践力を養い、未来を創造する力
- (4) 【地域貢献力】地域との連携や交流を通して、地域とつながり、地域の「人づくり・町づくり」に貢献する力

## 2 中期的目標

## 1 確かな学力の育成

- (1) 【授業力向上】新学習指導要領を踏まえ、「わかる授業、充実した授業」をめざし、不断の授業改善に取り組む。
  - ア 授業力向上委員会を中心に、公開授業、研究授業、相互授業見学、授業アンケートを活用した授業改善に組織的に取り組む。
  - ※「授業アンケート」による5つの授業評価軸平均（平成28年度3.15）を毎年引き上げ、平成31年度には3.21にする。
  - イ アクティブ・ラーニングを取り入れた授業やICT機器等を用いた授業を展開することにより、教員の授業力及び生徒の授業満足度の向上をはかる。
  - ※生徒向け学校教育自己診断における「授業はわかりやすい」に対する満足度（平成28年度68%）を平成31年度には78%にする。
  - ※生徒向け学校教育自己診断における「ICT機器が授業等で活用されている」に対する満足度（平成28年度64%）を平成31年度には74%にする。
- (2) 【進路実現の支援】学習指導と進路指導を連結させ、生徒の希望する進路の実現を支援する。
  - ア 全校的な取組みにより、生徒の学習習慣の確立を図る。
  - ※生徒向け学校教育自己診断における「家庭での学習時間を確保している」に対する肯定率（平成28年度40%）を平成31年度には50%にする。
  - イ 放課後や長期休業中の組織的な補習・講習体制の確立に取り組む。
  - ※生徒向け学校教育自己診断における「補習・講習を十分行っている」に対する満足度（平成28年度64%）を平成31年度には74%にする。
  - ウ 3年間を見通した進路プログラムを設定し、きめ細かいキャリア教育を実施することで、進路希望実現を図る。
  - ※生徒向け学校教育自己診断における進路指導満足度（平成28年度72%）を平成31年度には82%にする。
- (3) 【専門コース制の充実】2つの専門コースにおける3年間を通した学習プログラムを構築する。
  - ※平成30年度実施へ向けて平成29年度は研究・準備期間とする。

## 2 コミュニケーション力の育成

- (1) 【生徒指導の充実】基本的な生活習慣の改善・定着を図るとともに、マナーや規範意識を醸成するなど社会性の向上を図る。
  - ア 挨拶、身だしなみの改善・定着、SNS使用上のモラル向上、遅刻指導の強化に向け、全教職員での取組みを図る。
  - ※生徒向け学校教育自己診断における「基本的習慣の確立に力を入れている」に対する肯定率（平成28年度64%）を平成31年度には74%にする。
  - ※年間遅刻者数を3年間で2割減にする。
- (2) 【ともに高めあう集団育成】特別活動や生徒会活動を通じて生徒の主体的な行動を促し、生徒の自主性や社会性を醸成する。
  - ア 部活動や各種行事を通じて、周囲との協調性を養い、課題に向かってともに越える力を醸成する。
  - ※生徒向け学校教育自己診断における「部活動に積極的に取り組んでいる」に対する肯定率（平成28年度53%）を平成31年度には65%にする。
  - ※生徒向け学校教育自己診断における学校行事満足度（平成28年度73%）を平成31年度には83%にする。
- (3) 【人権尊重の教育の充実】一人ひとりを大切に、だれもが安心して安全に学べる学校をつくる。
  - ア 心の教育を充実させ、生命と人権を尊重し、多様性を尊重し他者を思いやる豊かな人間性を育む。
  - ※生徒向け学校教育自己診断における「学校の人権意識育成姿勢」に対する肯定率（平成28年度64%）を平成31年度には74%にする。

## 3 課題解決力の育成

- (1) 【読書活動の充実】活字を通して様々な課題を知り、論理的思考力・表現力を養う。
  - ア 図書室を整備し、利用状況の向上を図る。
  - ※1年間の図書貸し出し冊数を平成31年度には平成28年度の20%増にする。
- (2) 【部活動の充実】部活動を通して、自己の課題を克服し、挑戦し続ける力を育成する。共通の目標に向かい努力し続けるチームをつくる力を醸成する。

## 4 地域貢献力の育成

- (1) 地域と連携し、地域の社会資源を活用した教育活動を展開する。
  - ア こども保育専門コース生徒による保育所、幼稚園への出前授業や交流。
  - イ 人文探究専門コース、一般系生徒による小・中学生への出前授業等の実施。
  - ※生徒向け学校教育自己診断における「授業や部活動などで地域の人々と交流する」に対する満足度（平成28年度43%）を平成31年度には60%にする。
- (2) 学校教育活動全体を通して組織的・計画的に学校保健活動を展開する中で、生徒の健康教育の推進や、清掃活動への徹底を促す。
  - ※生徒向け学校教育自己診断における「学校の美化環境」に対する肯定率（平成28年度55%）を平成31年度には65%にする。
- (3) 開かれた学校づくりの推進
  - ア 学校運営への一層の協力・理解を求めため、保護者に対する情報提供の工夫を凝らす。
  - ※保護者向け学校教育自己診断における「教育情報の提供」に対する満足度（平成28年度78%）を平成31年度には86%にする。
  - ※保護者向け学校教育自己診断における「本校HPをよく見る」に対する肯定度（平成28年度38%）を平成31年度には58%にする。
  - イ 地域に信頼され誇りとされる学校をめざし、図書室での生徒による出前授業を行うなど、本校の教育活動の内容を積極的に情報発信する。
- (4) 「みどりの森」計画の推進し、校内の広葉樹の伐採を縮小し、生長を促す。

## 5 学校経営・運営体制の強化

- (1) 普通科専門コース設置校への改編実施に伴い、学校運営の機動性を高めるため組織力の強化を図る。
  - ア 学校運営の機動性を高めるため、運営委員会や将来構想委員会の活性化を図り、多様な計画を実施する体制を確立する。
  - イ 新任・経験年数の浅い教員、ミドルリーダーの育成を図る。
  - ウ 平成30年度から全教員が1階職員室で校務に携わることができるよう環境整備を行う。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 29 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p><b>【学校満足度】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の「本校に入学してよかった」は5年連続80%超、保護者は3年連続90%超であった。また、「学校に行くのが楽しい」も一定の満足度は得られている。しかし、いずれも昨年度より下がっており、経年変化や学年別にみると一定の傾向が認められる。その要因を精査し改善策を検討することが課題である。</li> </ul> <p><b>【学習指導等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門コース制に改編して2年になるが、「コースやエリアや授業は役立つ」はほぼ例年通りで大きな変化は認められない。1年次について3年間を比較すると、生徒は72%→74%→76%、保護者は88%→86%→89%と上昇傾向にある。また、「興味・関心・適正・進路に応じた選択科目がある」は80%→82%と上昇、特に1年次においては87%と高い。これらを総括して、コース制への改編が順調に進んでいると言える。</li> <li>・「ICT機器の活用」は、生徒は64%→76%（1年次79%→88%）、教員は70%→86%と飛躍的に上昇し、夏期休業中に全HR教室にICT機器を設置した成果が顕著に表れている。</li> <li>・生徒の「教え方に工夫し授業はわかりやすい」は62%→68%→66%と伸びが止まった。「わかりやすい授業」につながる効果的なICT機器活用等や生徒が主体的・能動的に学ぶ「わかりやすい授業」の研究を組織的に進める必要がある。</li> <li>・生徒の「自分でまとめる・発表する」は47.1%と昨年度より0.6%微増に留まっている。5年前より20%増加し1年次は54%と半数以上が肯定的に捉えているが、「主体的・対話的で能動的な学び」が広くできている状況ではない。これまで行ってきた授業スタイルに固執することのない授業研究が求められる。</li> <li>・生徒の「家庭学習時間の確保」は29%→31%→33%→36%→40%→47%と年々上昇してきたが、毎年2年次での落ち込みがみられるのが課題である。</li> <li>・生徒の「補習や講習を十分行っている」は64%→71%と上昇し、この6年間で最も高い値であった。保護者においてはさらに顕著で44%→58%→64%→74%と3年連続で大幅に上昇している。今年度は「朝学習」の継続実施を保留したが、学習習慣や学習機会の減少が生じているとは言えない。これらを踏まえ、次年度に向けて効果的な学習習慣の定着を実現する具体的方策の検討が必要である。</li> </ul> <p><b>【生徒指導等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の「先生の指導は適切」は70%→68%→67%と肯定的回答が微減したが、保護者の「指導方針に理解」は74%→74%→73%、「指導に協力」は77%→77%→78%といずれもほぼ一定の肯定的回答を得られていると言える。遅刻指導の徹底により遅刻数は5年連続で大幅減、身だしなみ指導の徹底にも努め、「厳しくなった」と感じる生徒の声も聞こえるが、否定的回答が多くなったとは認められず、今後も緩めることなく規範意識の啓発に努める。</li> <li>・生徒の「先生は生徒の意見をよく聞く」は62%→64%、「相談できる先生がいる」は55%→60%といずれも上昇した。保護者の「保護者の相談に適切に応じる」は80%→83%、「生徒の相談に親身」も72%→76%と上昇している。これらのことから学校全体としての指導は厳しく行いながら、教育相談体制が有機的に機能するなど、一人ひとりを大切に作る教育が充実してきたと言える。</li> <li>・「進路実現に向けて適切な指導」の生徒は72%→75%、保護者は73%→82%と上昇、「奨学金について十分に説明」の生徒は59%→64%、保護者は71%→72%と上昇した。これらのことから進路保障に係る事柄も丁寧にアドバイスや支援を行うようになっていると言える。</li> <li>・生徒の「人権教育の推進」は64%→68%、「命の大切さや規範意識を学ぶ」は67%→71%と上昇する一方で、「クラスやクラブは気軽に話せる集団」は69%→69%、保護者は76%→71%と良い結果が得られていない。このことから人権教育の取り組みの充実を図りながら、集団育成の観点でクラス等における仲間づくりに重点をおいた学びの実践を進めることが課題であると捉える。</li> <li>・生徒の「部活動に積極的に取り組んでいる」は53%→55%、「地域との交流」は43%→50%といずれも上昇したがまだまだ低い。更なる取り組みの充実を図る必要がある。</li> </ul> <p><b>【学校運営等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の「家庭連絡が積極的」は68%→74%、「教育情報提供の努力」は78%→83%、「ホームページをよく見る」は38%→41%と上昇している。今後もきめ細やかな情報提供がなされるよう組織的に取り組む。</li> <li>・教員の「学校経営の推進」は68%→81%、「教育理念や学校運営方針の明示」は79%→92%「ホームページの活用」は35%→59%といずれも大幅に上昇した。しかし、教員の「組織間連携」は43%→50%と上昇したが依然低い水準であり、「日常的に話し合っている」は68%→68%、「授業方法について検討する機会」は60%→63%、「指導内容についての教科での検討」は64%→63%、「会議が意見交換の場として有効に機能」は35%→39%といずれも低い水準で推移している。職員室が学年ごとに分かれており、顔を合わせる機会が特定の教員に限られていることが多いことが根幹的な要因の一つだと考える。大職員室の設置等、具体的方策を進める必要がある。</li> </ul>	<p><b>【第1回（6/27）】</b></p> <p>○授業見学について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・落ち着いた雰囲気で生徒の学ぶ姿勢もよい。</li> <li>・学習内容をプロジェクターを使って視覚化しながら説明したり、グループワークを行うなど工夫がみられる。</li> <li>・数学の授業で学びあいをしているのがよかった。</li> </ul> <p>○学習指導等について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「主体的・対話的で深い学び」と言われているように、生徒の自主的な学びが多くある学校は学力が顕著に伸びている。このことを踏まえ、生徒の自主性を育む教育を推進してほしい。</li> <li>・褒めることで意欲が高まり、学力伸長につながることが多い。「ポジティブ・サイコロジ」という言葉もあるように、様々な場面でちょっとしたことでも、褒めることを意識的に増やせば、さらに効果が現れるように感じている。</li> </ul> <p>○生徒指導等について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・効果的な遅刻指導により、遅刻数が年々減少しているのは評価できる。遅刻の多い生徒に対する指導で、新聞のコラムを書写させていると聞いたが、学力の伸長につながっているか疑問。遅刻数と部活動の活性化との関連や遅くまでアルバイトをしていることの影響を考えるなど調査研究し、改善へ相乗効果が現れるような指導になるように努められたい。</li> <li>・ピアス等の装飾品の指導をしていることはわかったが、化粧の指導についてはどうなっているのか。特にリップについては最近濃くなっている印象を受ける。他校でも見られるので、最近の高校生の傾向なのだろうが、粘り強く指導する必要がある。</li> </ul> <p>○学校運営等について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進路決定に向けての具体的な指導について、教職員全体で共有しておく必要がある。各学年2名ずつの進路指導部員が分掌と学年の橋渡しを担っており、進路指導主事が運営委員会や職員会議で全体化している。また、就職主担者も折に触れて情報共有に努められていると聞いた。ぜひ続けてもらい、さらに進めてもらいたい。</li> <li>・新年度になってホームページを更新が頻繁になり、地域へ情報発信することが多くなったのは評価できる。ぜひ続けてもらいたい。</li> </ul> <p><b>【第2回（10/20）】</b></p> <p>○学習指導等について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒は授業を大切にノートも丁寧にとっているが、同学力に結びつくかが課題。教科によっては予習では理解できない生徒もいると思われるので、授業内容の復習をしっかりと行い、定着させる方が効果的ではないか。</li> <li>・予習はどこかが分からないかをチェックする作業であり、授業で分からない箇所を重点的に学ぶことにつながるため、学習効果を上げる有効な方法の一つである。</li> <li>・中学校では「めあてと振り返り」を行い、95.5%ができていると答えている。学力も上がっている。「物事を人に伝える経験」が少ないので今後重点的に取り組んでもらいたい。</li> <li>・宿題は適量がいい。多すぎると気分が滅入ってくる。「先生が楽しそうに授業している」という授業なら予習もしてみようかと思うかもしれない。本校の生徒は「楽しそうな授業」を思えば、自主的に学ぼうとしそうな印象を持つ。</li> <li>・「満点取るまで再テスト」とペナルティ的な学びの提供ではなく、「ここまでできればA」というように明示すると一生懸命頑張るのではないか。</li> </ul> <p>○生徒指導等について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は、「良くなっている」という報告が多い。遅刻数も平成25年度から激減した。教員の取り組みの成果が表出している。ここが踏ん張りどころであろう。</li> <li>・自転車事故が多いのではないか。学校で行われている交通安全指導の内容を検討し直すことも考えるべき。</li> </ul> <p>○学校運営等について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時の連絡手段として携帯電話連絡網の作成はできないか。ホームページ等のサービス等では徹底できない。</li> <li>・今年度はいろいろな場面で明るい兆しが見えているように感じる。</li> </ul> <p><b>【第3回（2/19）】</b></p> <p>○学習指導等について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育自己診断結果で「特色ある授業」に対する肯定的回答が減っているが、普通科総合選択制から専門コース制になったからであろうか。</li> <li>・休日等の集中学習会の実施がとても良い企画なので続けてほしい。</li> </ul> <p>○生徒指導等について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外部の人に対して、礼儀正しく笑顔で挨拶をする生徒が随分増えてとても良くなった。</li> <li>・アルバイトの現状と指導はどうなっているのか。「生活のため、進学資金を貯めるため」が多いと聞かすが、学業が疎かにならないような具体的な指導が求められる。</li> <li>・東大阪地区の生徒指導事案は顕著に減っている。一方で小学校では不登校が増えている現状がある。高校でも不登校生徒は増加しているのか。今後も連携を深めたい。</li> </ul> <p>○学校運営等について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員のゆとりがなくなっているように感じる。大幅な定数減はやむを得ないのか。</li> </ul>

## 府立みどり清朋高等学校

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	(1) 授業力向上 ア 授業改善に組織的に取り組む イ AL、ICT 機器を活用した授業づくり (2) 進路実現の支援 ア 学習習慣の確立 イ 組織的な補習講習体制の確立 ウ 進路プログラムを設定しキャリア教育実施 (3) 専門コース制の充実	(1) ア・研究授業推進月間、相互授業見学の実践 ・ 授業アンケート結果に基づく校内研修会の実施 ・ 「観点別評価」等に係る実践の検証・分析 ・ 実習・体験学習の推進（校外も含む） ・ 授業における地域資源の積極的活用 イ・「考える授業」、ICT 機器等を取り入れた授業展開の開発・実践及び発表や説明の機会を増やす授業展開の実践 (2) ア・1 年次教科別勉強法の徹底指導 ・ 1、2 年次での習熟度別少人数授業実施 ・ 英語検定、漢字検定等の資格取得促進 ・ 授業の予習復習を習慣づける家庭学習の充実 イ・校内講習体制の組織化（進路指導部主導の講習） ・ 放課後、長期休業中の講習等の充実 ウ・3 年間を見通した進路プログラムの実施 ・ 「進路カルテ」の作成による生徒一人ひとりのキャリアデザイン支援 ・ 適時な進路情報の提供、目標設定の支援 ・ 大学見学会の実施等、外部説明会への参加、卒業生との懇談会による進路意識の向上 ・ 保護者向け進路説明会による肌理細やかな情報の提供 (3) ・ 人文探究コースにおける新しい大学入試制度に対応した学力を保障する学習計画の構築及び 1、2 年次生への先行導入の取組み	(1) ア・生徒向け学校教育自己診断における「入学満足度」を 88%（平成 28 年度 86%） ・ 授業アンケートの 5 つの授業評価軸平均を 3.17（平成 28 年度 3.15） ・ 生徒向け学校教育自己診断における「授業はわかりやすい」を 72%（H28 年度 64%） イ・生徒向け学校教育自己診断における「ICT 機器の活用」満足度を 68%（同 64%） (2) ア・生徒向け学校教育自己診断における「家庭学習時間の確保」肯定率 44%（平成 28 年度 40%） ・ 検定受検者数の平成 28 年度比各 10% 増 イ・生徒向け学校教育自己診断における「補習講習は十分行っている」満足度 68%（平成 28 年度 64%） ・ 「行きたい大学」への合格者数 60% 以上 ウ・生徒向け学校教育自己診断における進路指導満足度を 76%（平成 28 年度 72%） ・ 保護者向け学校教育自己診断における進路情報提供満足度を 75%（平成 28 年度 72%） (3) ・ 平成 31 年度センター試験受験希望者数の年度末調査について、人文探究コース 1 期生（2 年次）の 50% 以上	(1) ア・相互授業見学期間を設定し、授業力向上委員会による研究授業を実施。見学したすべての授業を HP で公開する等、互いの授業を知る機会を作った。「観点別評価」の研究等、組織的な取り組みとしては不十分なものもあり、次年度は教育課程の検討も見据えて年度当初から授業改革の組織的な取り組みを進めたい。 「入学満足度」86%→81%（△） ・ 授業アンケート 5 つの授業評価軸平均 3.15→3.11（△） ・ 授業はわかりやすい」68%→66%（△） イ・全 HR 教室に ICT 機器を設置、活用講習会を実施。 飛躍的に向上した「ICT 機器の活用」64%→76%（◎） (2) ア・1 年次対象に「ノートの取り方講習会」を実施する等、学習方法の指導を強化した。意欲的に学ぶ生徒が増えた。「家庭学習時間の確保」40%→47%（○） 「検定受検者数」233 名→267 名 11.5% 増（○） イ・1 年次から年間を通して組織的な講習・補習・学習会を実施することができた。 「補習講習は十分に行っている」64%→71%（◎） 「行きたい大学への合格者数（○） ウ・一人ひとりキャリア支援を丁寧に行った。「進路指導満足度」生徒 72%→75% 保護者 73%→82% 「進路情報提供満足度」72%→76%（○） (3) センター出願者 17 名→41 名、2 年次 90% 以上（◎）
2 コミュニケーション力の育成	(1) 生徒指導の充実 (2) ともに高め合う集団育成 (3) 人権尊重の教育に充実	(1) ・全教職員が生徒指導課題を共有し、生徒の規範意識の向上にむけた組織的な実践 ・ 身だしなみや自転車マナーの講習会の開催 ・ 全教職員による授業規律、遅刻指導の徹底 (2) ・情報モラルの向上に係る指導の徹底 ・ 生徒会行事における生徒の主体的な活動の保障・拡充 ・ グループワークやディベート等を導入した表現力、発信力の育成 (3) 一人ひとりの違いを認め合い、安心して学び高め合うクラスづくりを意識した学級経営の実践 ・ 豊かな人権感覚を醸成する講演会等の実施	(1) ・生徒向け学校教育自己診断における「基本的習慣の確立」68%（平成 28 年度 64%） ・ 遅刻者数前年比 7% 減（平成 28 年度 2119） (2) ・生徒向け学校教育自己診断における「人権教育の充実」68%（平成 28 年度 64%） ・ 生徒向け学校教育自己診断における「クラス活動が活発」69%（平成 28 年度 66%） (3) ・生徒向け学校教育自己診断における「一人ひとりが尊重される」72%（平成 28 年度 69%）	(1) 「ノーチャイムデー」の実施等、意識向上の啓発を全教職員で取り組み遅刻数を目標値に減らすことができたが、基本的な生活習慣についての生徒の意識の変化は見られず要因を精査したい。「遅刻者数前年度比」7% 減（○） 「基本的な生活習慣の確立」64%→63%（△） (2) 情報モラル向上や豊かな人権感覚の醸成に努め、主体的な活動の支援を行った。「人権教育の充実」64%→68%（○） クラス討議などの取り組みを充実させたい。 「クラス活動が活発」66%→67%（△） (3) 違いを認め高めあう集団育成を重点的に行ったが弱かった。「一人ひとりが尊重される」69%→69%（△）、
3 課題解決力の育成	(1) 読書活動の充実 (2) 部活動の充実	(1) 図書室の整備の推進及び読書活動の組織的啓発 ・ 全生徒が各学期に 1 冊以上の読書 (2) ・入学当初の体験入部等の拡充 ・ アルバイト等への規制実施 ・ 外部指導者の活用 ・ 学校説明会等での中学生の部活動見学実施 ・ ホームページによる活動報告等の随時発信	(1) ・年間図書貸出し数を生徒数×4（3300 冊） ・ 図書を活用した地域との交流を年 1 回実施 (2) ・生徒向け学校教育自己診断における「部活動に積極的」肯定率を 60%（平成 28 年度 53%） ・ 10 期生部活動加入率 70% (9 期生加入率 60%)	(1) 図書室を活用した授業が拡充し、生徒が図書を利用することが多くなったが、全生徒が各楽器に 1 冊読書する取り組みは進まなかった。「図書貸出数」3338 冊（12 月末）（○） (2) 部活動紹介の工夫や運動部スポーツ大会を初めて実施する等、また日頃の活動のお簿を HP で頻りに紹介し活性化を図った。1 年次加入率は上昇したものの目標値には達しなかった。「10 期生部活動加入率」60%→66%（△）
4 地域貢献力の育成	(1) 地域と連携した教育活動の展開 (2) 学校美化活動の推進 (3) 開かれた学校づくりの推進 ア タイムリーな保護者への情報提供 イ 中学校等への広報活動	(1) ア・地域の学校や福祉施設などとの連携推進 ・ 小学校・中学校への出前授業、保育所等での生徒の実習体験、自治会事業への参加 ・ 部活動での小・中学生との交流 ・ 交流生徒の拡大、交流行事の広報 (2) 校内及び学校周辺の生徒の主体的な清掃活動の実践 (3) ア・ホームページの活用 ・ 保護者、地域への授業見学会実施 ・ 保護者向け講演会開催と個人面談の充実 ・ 学校行事における P T A との一層の連携 イ・生徒が活躍する学校説明会を開催（年 5 回） ・ 全教員による中学校訪問の内容充実 ・ 出張模擬授業の実施、中学生への授業公開	(1) ア・生徒向け学校教育自己診断における「地域との交流」認知度を 50%（平成 28 年度 43%） (2) 生徒向け学校教育自己診断における「学校の美化環境」に対する肯定率 60%（平成 28 年度 55%） (3) ・保護者向け学校教育自己診断における「教育情報の提供」を満足度 81%（平成 28 年度 78%） 「本校 HP をよく見る」を 50%（平成 28 年度 38%） ・ 学校説明会への参加中学生数を 1000 名（平成 28 年度 942 名）	(1) ア・近隣の小中学校への生徒の出前授業や和太鼓部の人権学習での講演等を実施した。さらに拡充していきたい。「地域との交流」43%→50%（○） (2) 日常の清掃活動に加えて 1 月に治水緑地のクリーン活動を行った。日常の美化意識を高めることが課題である。「学校の美化環境」55%→54%（△） (3) ア・ホームページの更新を頻りに行い、本校教育の取り組みがよくわかるように努めた。保護者対象の進路講演会や中学校との連絡会を実施し連携に努めたが、さらに充実させたい。「教育情報の提供」78%→83%（◎）「本校 HP をよく見る」38%→41%（△）（アクセス数は大幅増） イ・中河内地域公立中学校への訪問 2 回、管理職 1 回行った。「学校説明会参加生徒数」942 名→912 名（1 月末）（○）
5 学校運営体制の強化	(1) 新しい学校づくりを進める 運営体制の強化	(1) 全教職員が一丸となって、教育目標達成に向けて協力し支え合い実践する組織づくり ・ 経験年数の少ない教員が安心して職務に専念できる OJT の充実とミドルリーダーの育成 ・ 分掌、学年、教科、事務室が有機的に結びつき、より機能的合理的に職務を遂行できる職員集団の形成	(1) 生徒向け学校教育自己診断における「先生はお互いに協力し指導にあっている」を 60%（平成 28 年度 56%） ・ 教職員向け学校教育自己診断における「教員間で授業方法等について検討する機会を積極的に持っている」に対する肯定率 65%（平成 28 年度 60.3%） 「学年・分掌・委員会等の組織間の連携はうまくいっている」に対する肯定率 65%（平成 28 年度 43%）	(1) より機能的合理的に職務を遂行できるようになると教職員の意識が高まり、学年・分掌・教科の協働や連携がうまく動くように校務の分担や順序の整理を共有に努めてきたが、生徒には伝わっていない結果となった。要因を精査し問題の把握に努め、有機的な組織づくりを進める。「先生はお互いに協力」56%→51%（△） 「授業方法等について検討」60%→63%（△） 「組織間の連携」43%→50%（△）